

「ネットいじめ」をなくし、よりよい情報社会を形成する態度を育成するための
アサーションを取り入れた指導プログラムの開発

岡山吉備情報モラル研究会
グループ研究代表 人見 浩子

要 約

本研究では、「ネットいじめ」も「いじめ」の一つの形態であると認識し、教育相談の分野で友人関係づくりに用いられているアサーションを情報モラル教育に取り入れた。アサーションは、相手のことも配慮しながら自分らしく、その場にふさわしい自己表現能力を高めることから、いじめ問題への対応にも用いられている演習方法だからである。具体的には、次のような内容の研究に取り組んだ。

- (1) 国内外のアサーションの演習手法に関する先行研究を調査した。
- (2) 各学校種の発達段階に対応したアサーションを取り入れた指導プログラムを開発した。
- (3) 開発した指導プログラムを授業実践を通して評価した。

アサーションの指導プログラムは、次のような段階を含むプログラムである。

1. テーマ：ネット上でのアサーティブな表現の仕方
2. ねらい：自分も相手も大切にしたい、自分の気持ちの伝え方のよさを知り、インターネットや携帯電話でのコミュニケーションにおいても活用しようとする意欲を高める。
3. 対象：中学生、高校生
4. 教科・領域：学級活動、ホームルーム活動
5. 展開
 - ・ 第1時 自分の気持ちを表現する三つの伝え方
 - ・ 第2時 攻撃的な表現からアサーティブな表現へ
 - ・ 第3時 非主張的な表現からアサーティブな表現へ
 - 第4時 D E S C法を用いたネットへの書き込み

中学校、高等学校において指導プログラムを用いて授業実践を行い、評価したところ、おおむねねらいを達成することができた。

勤務先：岡山県立岡山御津高等学校

1. 研究の目的

日々多様化するネット社会、教育現場ではそれに対応する指導体制が取れず、後手後手になっているのが実情である。現在学齢期にある児童・生徒にとって、携帯電話やインターネットというツールは物心ついた時から大変に近きものであった。そして、いつの世にも文明の発達は恩恵のみを人類に与えてきたわけではない。携帯電話やインターネット上のネット社会において、我々の想像を凌駕する負の側面が顕著になってきた。「学校裏サイト」と呼ばれる掲示板や携帯サイト上に簡単に作成できる「プロフ」などがいじめの温床になり、陰湿化の一途をたどっている。

そこで、本研究では、「ネットいじめ」も「いじめ」の一つの形態であると認識し、教育相談の分野で、友人関係づくりに用いられている演習手法を取り入れようと考えた。教育相談の分野の演習手法としては、いじめや暴力、不登校等の生徒指導上の問題に対応するため、構成的グループエンカウンターやアングーマネジメント等、様々な演習手法が開発・実践されてきている。本研究は、それらの中でも特に、アサーションに注目した。アサーションは、相手のことも配慮しながら自分らしく、その場にふさわしい自己表現能力を高めることから、いじめ問題への対応にも援用できると考えたからである。アサーションは、通常、授業の中で児童生徒が実際に対面しながら演習を進めるが、本研究ではコンピュータ室のLAN上での書き込みの演習を併用しながら行うこととする。

具体的には、次のような内容の研究に取り組む。

- (1) いじめ問題に対応した、教育相談の分野での演習手法に関する先行研究を調査する。
- (2) 携帯電話でのコミュニケーションの実際を調査する。
- (3) 各学校種の発達段階に対応したアサーションを取り入れた指導プログラムを開発する。
- (4) 開発した指導プログラムを授業実践を通して評価する。

開発するアサーションの指導プログラムとしては、具体的には、次のような段階を含むプログラムを構想している。

アサーティブ、アグレッシブ、ノンアサーティブに対する知的理解と、自己主張に関する自分の傾向に気付くという自己理解を目的とした学習を行う。

電子掲示板やブログ上での会話を中心に、実際にシナリオ「三つの話し方」に基づく発言をLAN上で体験する。

ロールプレイングによるネットへの記述を通して、書き方によって読み手に与える印象が違ふことに気付き、アサーティブな自己主張のある書き込みを体験する。

D E S C法を用いてネットへの書き込みのセリフ作りをする演習を行う。

(D S E C法とは、自分の考えや気持ちをアサーティブに主張するための話の組み立て方のルールで、D (describe:描写する)、E (express:表現する)、S (specify:提案する)、C (choose:選択する) の段階を経てセリフを作る方法である)

本研究は、情報教育の三つの目標の中では、「情報社会に参画する態度」の育成をねらっている。「ネットいじめ」を解消することだけでは、よりよい情報社会を形成し、情報社会に参画するために必要な考え方や態度を身に付けるには不十分である。アサーションは、相手のことも配慮しながら自分らしく、その場にふさわしい自己表現能力を高めることが可能であることから、いじめ問題への対応のみならず、児童生徒にネット社会での適切な自己表現の方法も身に付けさせたいと考えている。

2 . いじめ問題に対応した、教育相談の分野での演習手法に関する先行研究の調査

(1) ねらい

岡山県内で実践されているいじめ問題に対応した実践を整理し、教育相談的な手法がどのように活用されているか考察する。

(2) 方法

岡山県教育庁人権・同和教育課が発行している人権教育指導資料や県教育委員会が発行しているいじめ問題実践事例集から、教育相談的手法を整理する。その後、用いられている手法の特徴について考察する。

(3) 結果

次の表に演習手法を整理した。

番号	学校種	題 材	概 要	評 価	演習手法
1	小学校	ソーシャルスキル教育の活用	自己主張をし過ぎて友達とのトラブルを起こす児童や、自分の思いをうまく伝えられず誤解を招いたりする児童が見られる。いじめ防止となる児童生徒の良好な人間関係を目指し、ソーシャルスキル・トレーニングを取り入れた。	児童は非言語面にも敏感になり、相手の表情から感情を読み取った上で言葉掛けや、自分も相手も大切にしたい伝え方ができるようになった。	ソーシャルスキル・トレーニング

2	小学校	「ほかほか言葉」による温かい人間関係づくり	単学級のため、互いをよく知り、仲がよい反面、遠慮がなくなり、相手を傷つける言葉を平気で言うことがある。相手のことを思いやる言葉を使い、豊かな人間関係をつくることができるよう、「ほかほか言葉」を広める取り組みを行った。	「ほかほか言葉」を広めるために、「ほかちゃん」キャラクターを作り、思いやりのシンボルとして広がってきている。	アサーション
3	中学校	いじめ防止プログラム	いじめの卑劣さや残酷さ、いじめが人権侵害にあたることについての意識は十分でない。そこで、「いじめ防止学習プログラム」を開発し、実践した。	被害者を何とかしようとする意識が高まった。いじめが発生した場合に、仲間同士の助け合いが起こり、深刻な事態に陥る危険性はより低くなっている。	アンガーマネジメント
4	中学校	生徒会による自主的ないじめ未然防止	生徒会が友愛の会(いじめ対策実行委員会)を立ち上げ、生徒同士で助け合い、いじめを許さない雰囲気づくりを目指した。	「友愛ワッペン」等の取り組みを地域に広めることにより、保護者や地域住民を巻き込んだ活動に発展している。	ピアサポート ソーシャルスキル・トレーニング
5	高等学校	集団を育てるピアサポート	トレーニングによって成長した生徒たちが、日常生活の中でサポート活動を行い、仲間同士の人間関係を豊かにしたり、解決したりする。	サポートを受けた生徒達からは、仲間支援の良さが確認できた。また、自己肯定感の高まりが調査から確認できた。	ピアサポート

(4) 考察

いじめに対応した実践に教育相談的な手法が取り入れられている。小学校では、ソーシャルスキル・トレーニングによって、コミュニケーションの基本的なスキルを身に付けている。中学校

になるとその発達段階から、アンガーマネジメントによって感情をコントロールする方法を学んでいる。そして、高校生になると、より高度なソーシャルスキルを身に付けるとともに、ピアサポートによって相互の人間関係の向上に活用されている。

このような実態から、いじめの対応に教育相談的な手法を用いることの有効性は明らかである。アサーションについては、非常に初歩的ではあるが、小学校において自己表現の方法として用いられていることが分かった。いじめのきっかけが相互のコミュニケーションの行き違いにあることが多いことから、アサーションを学ぶことはいじめ対策に有効だと考えられる。

3．携帯電話でのコミュニケーションの実際に関する調査

(1) ねらい

生徒が携帯電話でどのようなコミュニケーションをとっているのかを調査することを通して、アサーションプログラムを開発する際のポイントを明らかにする。

(2) 方法

高等学校第3学年生徒41名を対象に、質問紙を用いて、データを収集する。

(3) 結果と考察

ア．携帯ライフ調査

- ・41人中37人が15歳までには自分専用の携帯電話を所有していた。
- ・1日のメール平均数は、一人あたり17通。
- ・主なメール相手は友達、しかも同じ学校・クラスの友達とのメールが多い。
- ・生徒間の同質の固定化された人間関係がうかがえる。

イ．携帯メールにおける顔文字・絵文字使用状況調査

・生徒の自由記述から、顔文字については「様々な感情を作ることができる」「今、思っていることを顔に表すことができる」、絵文字については「動くから感情が伝わりやすい」「種類が多く、組み合わせで様々なことを考えられる」という回答があった。このことから顔文字・絵文字は生徒の感情表出と深く結び付いていることが分かる。

・顔文字・絵文字使用理由については、感情にかかわる自由記述が多数を占める中、「なんとなく」「あるから使う」という回答が男子からのみ出た。日常の行動観察と照らし合わせて、感情の未分化・未発達の度合いとのかかわりが見られる。

ウ．感情語彙・感情記録・感情日誌・喜怒哀楽調査

・生徒は一つの絵文字（表情）に対して様々な感情を感じ取っている。故に、メールのやり

とりの中で、互いの誤解を生む可能性は十分にある。

- ・顔文字・絵文字は感情表出を促進させる働きを持つ一方で、感情の行き違いの原因ともなる。

- ・顔文字・絵文字による誤解を補うだけの、言葉で伝え合う力は生徒には育っていない。したがって、伝え合う力の育成は一層必要となる。

- ・生徒が自分自身の感情を出しやすい携帯メールという表現手段に着目していくことで、より生徒の内面に寄り添うことが可能になる。

エ．顔文字・絵文字の具体的な使用例調査

- ・携帯メールにおける顔文字・絵文字使用状況には、生徒間で暗黙の了解となっている共通ルールがある。人間の顔の表情は感情表出を担うもので、非言語の代替として生徒は大いに利用している。表情になんらかの記号を組み合わせる使用例が多いが、「よく使う顔文字・絵文字の組み合わせは」という質問に対し、同じ組み合わせの回答は少なかった。登録されている顔文字・絵文字だけでもかなりの数に上るので、様々な組み合わせを楽しんだり工夫したりしている様子が見える。

- ・顔文字・絵文字は、携帯メールという自己表現の中で、生徒が個性を示すことができる新たな文字のような働きも有しているのではないだろうか。生徒の言語化できない感情を、比較的容易に形にできる便利なツールだと思われる。仲間内でのみ理解できる顔文字・絵文字を工夫することで、仲間の連帯感を強める働きもある。

- ・顔文字・絵文字使用において、相手に気を遣っている例も幾つか挙げた。顔文字・絵文字は、メール相手に対する気遣いを示すという働きを大いに担っており、生徒間コミュニケーションに少なからぬ影響を与えている。

オ．プログラム開発上のポイント

一連の調査結果から、新しい表現スタイルを駆使する高校生像が鮮やかに浮かび上がると同時に、携帯スキルに追いついていない感情発達、未熟な表現力という実態が見えてきた。この結果を踏まえて、言葉で伝え合う力を育成することにポイントを置いたアサーションプログラムを開発する必要があることを指摘できる。

4．各学校種の発達段階に対応したアサーションを取り入れた指導プログラムの開発

(1) ねらい

アサーションは、通常、演習形式によって、自分の気持ちを表現する方法を学ぶ。そこで、対

面で行う指導プログラムを開発し、児童生徒を対象とした実践を行う前に、教員研修で試行し、評価する。

(2) 方法

教育相談的な手法を用いてアサーションプログラムを開発し、教育センターの研修において初任教師を対象に試行し、評価する。

(3) アサーションプログラムの開発

アサーションにより、自分の気持ちを表現する三つの伝え方を習得し、ネットでの活用意欲の向上を図ることをねらいとして、次の表に示すように6単位時間からなるアサーションプログラムを開発した。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 テーマ：自分の気持ちを表現する三つの伝え方2 ねらい：自分も相手も大切にしたい、自分の気持ちの伝え方のよさを知り、インターネットや携帯電話でのコミュニケーションにおいても活用しようとする意欲を高める。3 対象：中学生、高校生4 教科・領域：学級活動、ホームルーム活動5 展開<ul style="list-style-type: none">・ 第1時 自分の気持ちを表現する三つの伝え方
学習活動・・・具体的な事例から、自分の気持ちを表現する三つの伝え方を知る。・ 第2時 自分の気持ちの攻撃的な伝え方
学習活動・・・自分の気持ちの攻撃的な伝え方の問題点を検討する。・ 第3時 攻撃的な表現からアサーティブな表現へ
学習活動・・・思いこみを変えて、自分も相手も大切にしたい伝え方を考える・ 第4時 自分の気持ちの非主張的な伝え方
学習活動・・・自分の気持ちの非主張的な伝え方の問題点を検討する・ 第5時 非主張的な表現からアサーティブな表現へ
学習活動・・・思いこみを変えて、自分も相手も大切にしたい伝え方を考える。・ 第6時 インターネットや携帯電話でのコミュニケーション
学習活動・・・LANを用いたネットでのアサーティブな表現を考える。 |
|---|

(4) 評価

初任教師を対象として、実際の授業を想定したワークショップを行った。

・「三つの自己表現の違いがよく分かった」「気持ちを伝える表現方法が指導しやすい」など、受講者からは概ね高い評価を得た。

・アサーションの演習と、LAN上でのコミュニケーションの場面とをどのように関連させていけばいいのかが分かりにくいという意見があった。

5．初年度末における成果と課題

(1) 成果

ア．先行実践の調査から、いじめ対応に、教育相談的な手法が有効であることが明らかになった。

県内のいじめ対応の事例分析から、教育相談的な手法は有効であるということが明らかになった。アサーションについても、小学校で初歩的な段階の指導を取り入れている事例があった。いじめのきっかけが相互のコミュニケーションの行き違いにあることが多いことから、アサーションを学ぶことはいじめ対策に有効だとの見通しが立った。

イ．実態調査から、高校生は、感情発達が携帯スキルに追いついておらず、表現も未熟なことが分かった。

一連の調査結果から、新しい表現スタイルを駆使する高校生像が鮮やかに浮かび上がると同時に、携帯スキルに追いついていない感情発達、未熟な表現力という実態が見えてきた。指導プログラムにおいても、言葉で伝え合う力を育成することにポイントを置いたアサーションプログラムを開発する必要があることが分かった。

ウ．指導プログラムの開発と教員研修での試行を通して、児童生徒に自己表現の方法を習得するのに有効である見通しが立った。

アサーションを取り入れた指導プログラムを開発した。これは、中・高等学校向けで、学級活動やホームルーム活動において、児童生徒に三つの自己表現の方法を指導するものである。教育センターで初任教師を対象とした研修で実践したところ、概ね良好であったが、アサーションの演習とLAN上でのコミュニケーション場面との関連をどのように図るかが課題として上がった。

(2) 課題

アサーションを取り入れた指導プログラムを開発し、教育センターで初任者教師を対象とした研修で実践したところ、概ね良好であったが、アサーションの演習とLAN上でのコミ

コミュニケーション場面との関連がスムーズでないことを指摘された。つまり、教育相談的な手法であるアサーションの演習からLAN上でのコミュニケーション演習への展開がうまくいかない、ということである。

この点は、いわゆる教育相談と情報教育との接点になるところであるので、どのように連携を図っていくか、指導プログラムの工夫を考えたい。例えば、次のような工夫が想定できる。

- ・アサーションの演習の際に、ネットいじめなどネットでのコミュニケーションの問題を取り上げ、意識付けることで、コミュニケーション演習への関連を強化する。
- ・アサーション演習を対面による教育相談的な演習で済ませるのではなく、この段階からLAN上への書き込み演習を取り入れ、書き込み演習の中でアサーティブな自己表現の方法を習得するようにする。

6．中学校、高等学校における指導プログラムの実践

(1) ねらい

開発したアサーションプログラムを中学校、高等学校において実践することを通して、指導プログラムを評価する。

(2) 指導プログラムの修正

研究メンバーで集まり、先に挙げた工夫改善点を取り入れながら、次のように指導プログラムを修正した。

- ・教育相談的な手法であるアサーションの演習からLAN上でのコミュニケーション演習への展開をスムーズにつなげるために、電子掲示板上でのコミュニケーションを想定した場面設定を行った。
- ・LAN上に設定した電子掲示板への書き込み演習を取り入れた。その際、DESC法を用いてネットへの書き込みのセリフ作りをする演習を行うこととした。
- ・指導プログラムの効率化を図るため、第2時と第3時、第3時と第4時をそれぞれ1単位時間にまとめ、全体で4単位時間になるようにした。

(3) 授業実践

当初、小・中・高を対象とした指導プログラムを開発する予定であったが、小学校では、電子掲示板的利用状況が低いため、中学校、高等学校に共通な指導プログラムを開発し、中学校、高等学校において授業実践を行うこととした。

以下に、高等学校における授業実践の中での生徒の反応を記述する。

ア．第1時 自分の気持ちを表現する三つの伝え方

学習目標	AさんとBさんの具体的な場面を想定した事例から、自分の気持ちを表現する三つの伝え方を知る。	
学習活動（主な発問・予想される反応）	教師の支援	
1 事例を読む。 次の事例を読んで、考えよう。	事例が掲載されたプリントを配布する。	
<p>同じクラスのAさんとBさんは、文化祭の展示準備を担当していました。文化祭が間近に迫ったある日の放課後、Bさんが「私、今日は用事があるから、後のことはやっておいて。」と悪びれた様子もなく帰ってしまいました。Aさんは割り切れない気持ちのまま、遅くまで手間のかかる作業をしました。</p> <p>翌日、クラスメートが「Bちゃん、昨日先輩たちとカラオケに行っていたよ」とAさんに告げました。そのとき、Aさんの胸の内には作業が遅れていることへの不安に加えて、Bさんに対する不満がわいてきました。</p> <p>Aさんの気持ちの伝え方には、次の三つが考えられます。</p> <p>「Bちゃんはいつも面倒なことを人にばかり押し付けているよ。ほんといい加減にしてほしいわ」</p> <p>「Bちゃん、昨日私一人だったから作業があんまり進まなくて・・・ごめん」</p> <p>「Bちゃん、昨日の準備のことだけど、予定ほど進まなかったよ。Bちゃんの力が必要なのよね」</p>		
2 自分の気持ちを表現する三つの気持ちの伝え方を知る。 あなたがAさんなら、どのように自分の気持ちをBさんに伝えますか。 から選び、その理由を書きましょう。	自分の気持ちを表現する三つの伝え方を説明する。	
<p>は自分の気持ちの一方的な伝え方（自分本位で攻撃的）</p> <p>は自分の気持ちの卑屈な伝え方（他人本位で非主張的）</p> <p>は相手の言い分を聴く余地を持った自分の気持ちの伝え方（アサーティブ）</p> <p>のどれを選択するかで、その後の状況は大きく変わってきませんか。</p>		
3 望ましい伝え方を考える あなたがBさんなら、どんな言葉をかけてもらいたいですか。Aさんのセリフを考えてみましょう。	記入用紙を配布して書かせる。	

生徒の反応

三つの気持ちの伝え方のうち、 の攻撃的な伝え方を選択する生徒が多かった。しかし、立場を変えて、「どんな言葉をかけてもらいたいか」考えると、「昨日の作業はあまり進まなかった

から手伝って」「今日は残れる？」などのアサーティブな表現の記述が多くなっていた。

イ．第2時 攻撃的な表現からアサーティブな表現へ

学習目標	電子掲示板の書き込みを想定して、気持ちの攻撃的な伝え方を体験する。攻撃的な表現からアサーティブな表現へ変える方法を考える。	
学習活動（主な発問・予想される反応）	教師の支援	
1 自分の気持ちの攻撃的な伝え方を考える。 次の電子掲示板の書き込みに対して、自分の気持ちの攻撃的な伝え方を書いてみましょう。	事前に用意した書き込みのある電子掲示板を提示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>A：「Bちゃんはいつも面倒なことを人にばかり押し付けているじゃない。準備をさぼるとか本当にいい加減にしてほしいわ。もう話にもならないわ。」</p> <p>B：「なに一人でキレているの？」</p> <p>A：「 」</p> </div>		
この書き込みを読んで、どのような感じがしましたか。		
2 攻撃的な伝え方になる背景を考える。 自分の気持ちを攻撃的に伝えてしまう背景には、思いこみがある場合があります。Aさんの思いこみを書き出してみましょう。	ワークシートを配布し、記入させる。	
3 Aさんの思いこみを別の視点で捉える。 相手の言い分を聴く余地を持った自分の気持ちの伝え方になるように、Aさんの思いこみを変えて書きましょう	ワークシートに記入させる。	
4 別の状況で、アサーティブな表現を考える。 自分の気持ちを攻撃的に伝えてしまったことがありますか。「いつ」「だれに」対してでしょうか。具体的に書き出してみましょう。そして、自分も相手も大切にしたい伝え方をするように考えてみましょう。	表形式に整理したワークシートを配布する。	

生徒の反応

Aさんの思いこみとしては、「楽しみでカラオケに行ったと思っている」「手伝わずに遊びに行ってしまった」などがあつた。その思いこみを、「友達に強引に誘われて行ったのかもしれない」「手伝わなかったことを後ろめたく思っているのかもしれない」など、別の視点で捉えるこ

とができた。また、別の状況についてもアサーティブな表現で書き込むことができた。

ウ．第3時 非主張的な表現からアサーティブな表現へ

学習目標	電子掲示板の書き込みを想定して、気持ちの非主張的な伝え方を体験する。 非主張的な表現からアサーティブな表現へ変える方法を考える。	
学習活動(主な発問・予想される反応)	教師の支援	
1 次の電子掲示板の書き込みに対して、自分の気持ちの非主張的な伝え方を書いてみましょう。	事前に用意した書き込みのある電子掲示板を提示する。	
<p>A：「Bちゃん、昨日私一人だったから作業があんまり進まなくて・・・ごめん・・・昨日の用事は無事にすんだあ？」</p> <p>B：「うん。」</p> <p>A：「 」</p>		
<p>この書き込みを読んで、どのような感じがありましたか。</p> <p>2 自分の気持ちを非主張的に伝えてしまう背景には、思いこみがある場合があります。Aさんの思いこみを書き出してみましよう。</p> <p>3 相手の言い分を聴く余地を持った自分の気持ちの伝え方になるように、Aさんの思いこみを空欄に書きましよう</p> <p>4 自分の気持ちを非主張的に伝えてしまったことがありますか。「いつ」「だれに」 対してでしょうか。具体的に書き出してみましよう。そして、自分も相手も大切にしたい伝え方をするように考えてみましよう。</p>	<p>ワークシートを配布し、記入させる。</p> <p>ワークシートに記入させる。</p> <p>ワークシートに記入させる。</p> <p>表形式に整理したワークシートを配布する。</p>	

生徒の反応

電子掲示板の書き込みを読んだ感想として、「はっきりしてなくてイライラする」「Aさんはおどおどしている感じがする」などがあつた。次に、Aさんの思いこみを書き出す場面では、「思いこみというよりも、相手に対して卑屈になっているから」とか「Aさんは気を遣いすぎだ」などの反応があり、Aさんの思いこみを記述させるのは困難であつた。最後に、別の状況を想定して、アサーティブな表現を演習する場面では、部活動での先輩や後輩との会話やアルバイト先での店長との会話の場面などを設定し、自分も相手も大切にしたい伝え方を記述することができてい

た。

エ．第4時 DESC法を用いたネットへの書き込み

学習目標	DESC法を用いたネットへの書き込みのセリフ作りを体験する。	
学習活動(主な発問・予想される反応)	教師の支援	
1	<p>DESC法</p> <p>D : describe 描写する 状況や相手の行動など、今問題になっている場面に関する事実を的確に言語化する。この際、相手の推量や自分の推量が混じらないように気をつける必要がある。</p> <p>E : express、 explain、 empathize 表現する、説明する、共感する 自分の気持ちを表明したり、自分なりの説明をしたり、相手への共感を送ったりする。</p> <p>S : specify 特定の提案をする 相手にしてほしいことや変えてほしいことなどを伝える。これはあくまで提案であるので、「～していただけませんか？」という形で言語化する。ここでの提案は、すぐ実現できる具体性のある小さな要求であることがひとつのポイントである。</p> <p>C : choose 選択する Sで提案したことに対して、相手は、イエスかノーのどちらかの対応をしてくる。そこで、Cでは、それぞれの場合に、次に自分が打つ手を想定しておくのである。</p>	
2 ネット上で、次のような場面に遭遇した場	<p>事前に用意した書き込みのある電子掲示</p> <p>(1)自分がよく使う電子掲示板で、自分の知り合いに対する誹謗中傷が連続して書き込まれている場合、問題点をどのように描写(D)するか。</p> <p>(2)その書き込みに対して、賛否両論の反応があった場合、どのように自分の気持ちを表明(E)するか。</p> <p>(3)その書き込みに対して、賛否両論の反応があった場合、どのように提案(S)をするか。</p> <p>(4)その書き込みに対して、賛否両論の反応があった場合、どのように書き込むか。(C)</p>	
3 DESC法を用いた書き込みを振り返って、感想を書く。	ワークシートを配布し、記入させる。	

生徒の反応

電子掲示板に、自分の知り合いに対する誹謗中傷が書き込まれている場合に、どう対応するか考える場面では、比較的生徒は冷静に受け止め、これまでに学習してきたことを受け、攻撃

的表現をせず、アサーティブな書き込みができていた。客観的な見方をする学習をすることで、思いこみを排して、相手の立場や意見を尊重する態度が育ってきているようであった。

(4) 生徒の感想

指導プログラムを終えて、生徒に感想を求めた。その中から幾つかを次に挙げる。

- ・ 攻撃的、非主張的にならないための一つが、同じ目線で物事を捉えることではないだろうか。上から相手を見るでもなく、下手でみるのでもなく。私の経験で言えば、サッカーの試合中、チームメイトがミスをしてしまっても、攻撃的になり、「しっかりしろ」など厳しい言葉をかけてはいけない。また、非主張的になり、自分の考えを伝えられないようになるのも良くないと思った。この場合、自分の意見を伝えつつ、相手の立場を尊重し、「今のは仕方ないから気にしないでいいよ。まだまだチャンスはあるから一緒に頑張ろう。」など思いやりのある言葉をかけ、試合を円滑に進めることが大切だろうと思う。
- ・ 人が攻撃的、非主張的になってしまうのには、周りの環境や自分の立場などが関係しているのだと思います。自分の経験したことでは、部活動のサイトで、部長の言っていることや行動などに腹が立ち、そのことを電子掲示板に書こうかどうか迷ったことがあります。それは、練習のときに、その人がミスをしていて、自分に腹が立ったのか、ラケットを投げているのです。たとえ道具でもパートナーであるラケットを投げるなど本当にありえないと思いました。そのことを電子掲示板に書こうかと思いましたが、思いとどまりました。自分の気持ちをストレートに書いてしまうと、もっと部活の雰囲気が悪くなってしまおうと考えたからです。

7. 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本研究では、「ネットいじめ」に対応するため、教育相談の分野で、いじめをなくし、友人関係づくりに用いられているアサーションの演習手法に注目した。具体的には、次のような内容の研究に取り組んだ。

いじめ問題に対応した、教育相談の分野での演習手法に関する先行研究を調査した。

携帯電話でのコミュニケーションの実際を調査した。

各学校種の発達段階に対応したアサーションを取り入れた指導プログラムを開発した。

中学校、高等学校を対象に授業を実践し、指導プログラムを評価した。

研究メンバーが所属するいくつかの学校で指導プログラムを用いて授業実践してもらい、評価

したところ、おおむねねらいを達成することができた。

(2) 課題

指導プログラムには、電子掲示板への書き込みを想定した演習を取り入れた。しかし、小学生にとっては、電子掲示板への書き込むことの経験が少ないため、現実的な状況として考えることが困難となった。そのため、本研究では、中学校、高等学校を対象とした指導プログラムを開発し、授業実践を通して評価することになった。今後は、小学生のネット利用の場面を考慮した指導プログラムを開発し、授業実践を行うことが課題となる。

謝辞

(財)上月スポーツ・教育財団には、研究の機会と助成を与えていただいた。ここに記して謝意を表す。

参考文献

- ・ 岡山県教育委員会：いじめを許さない学校をめざして～いじめ問題実践事例集～
(http://www.pref.okayama.jp/file/open/1272206817_858741_21822_66680_misc.pdf)
- ・ 岡山県教育庁人権・同和教育課：人権教育指導資料 人権学習ワークシート集(上)、
(http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=18895)
- ・ 岡山県教育庁人権・同和教育課：人権教育指導資料 ワークショップ上、2004
- ・ 岡山県教育庁人権・同和教育課：人権教育指導資料 ワークショップ下、2005
- ・ 国立教育情報ナショナルセンター(NICER)：著作権・情報モラル
(<http://www.nicer.go.jp/>)
- ・ 財団法人コンピュータ教育開発センター：ネット社会の歩き方
(<http://www.cec.or.jp/net-walk>)
- ・ 平成18年度文部科学省委託事業『情報モラル等指導サポート事業』
(<http://kayoo.org/moral-guidebook/>)

研究協力者・実施場所

岡山吉備情報モラル研究会・メンバーの所属校